

財政福祉委員会
説明資料

平成30年3月12日

病院局

目 次

	頁
1 東部医療センターの整備スケジュール	1
2 愛知県地域医療構想における名古屋・尾張中部構想区域の病床数	1
3 東部医療センターにおける第三次救急医療体制に伴う予算の状況	2
4 東部医療センターにおける欠員の状況	2
5 市内の第三次救急医療施設の配置状況	3
6 口腔ケアの状況	4
7 市内の主な病院の歯科衛生士の常勤職員数	5
8 急性期一般入院料1（7対1入院基本料）の基準の見直し	6
9 病院事業における消費税及び地方消費税の推移	8
10 主な災害対策	9
11 名古屋市立病院改革プラン2017に定めた主な指標の状況	10
12 西部医療センターにおけるハイリスク分娩の状況	12
13 西部医療センター3階東病棟の利用状況	13
14 初期臨床研修医の出身大学別人数	14

1 東部医療センターの整備スケジュール

区 分	30年度	31年度	32年度	33年度
設 計		旧棟取り壊し及び 外構の設計		
工 事	病棟建設工事	開棟 ◎	旧棟取り壊し及び 外構の工事	

2 愛知県地域医療構想における名古屋・尾張中部構想区域の病床数

(単位：床)

区 分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
平成37年の 必要病床数	2,885	8,067	7,509	3,578	22,039
平成27年の 病床数	6,605	9,238	2,059	4,620	22,522
差 引	△ 3,720	△ 1,171	5,450	△ 1,042	△ 483

3 東部医療センターにおける第三次救急医療体制に伴う予算の状況

(1) 体制の拡充

(単位：人)

区 分	人 数
看 護 職 員	4
診 療 放 射 線 技 師	1
臨 床 工 学 技 士	1
臨 床 心 理 士 (嘱 託 員)	1

(2) 収入及び支出

(単位：千円)

区 分	事 項	金 額
収 入	救命救急入院料の算定	262,498
支 出	体制の拡充等	56,907
	医療機器の整備	17,000

4 東部医療センターにおける欠員の状況

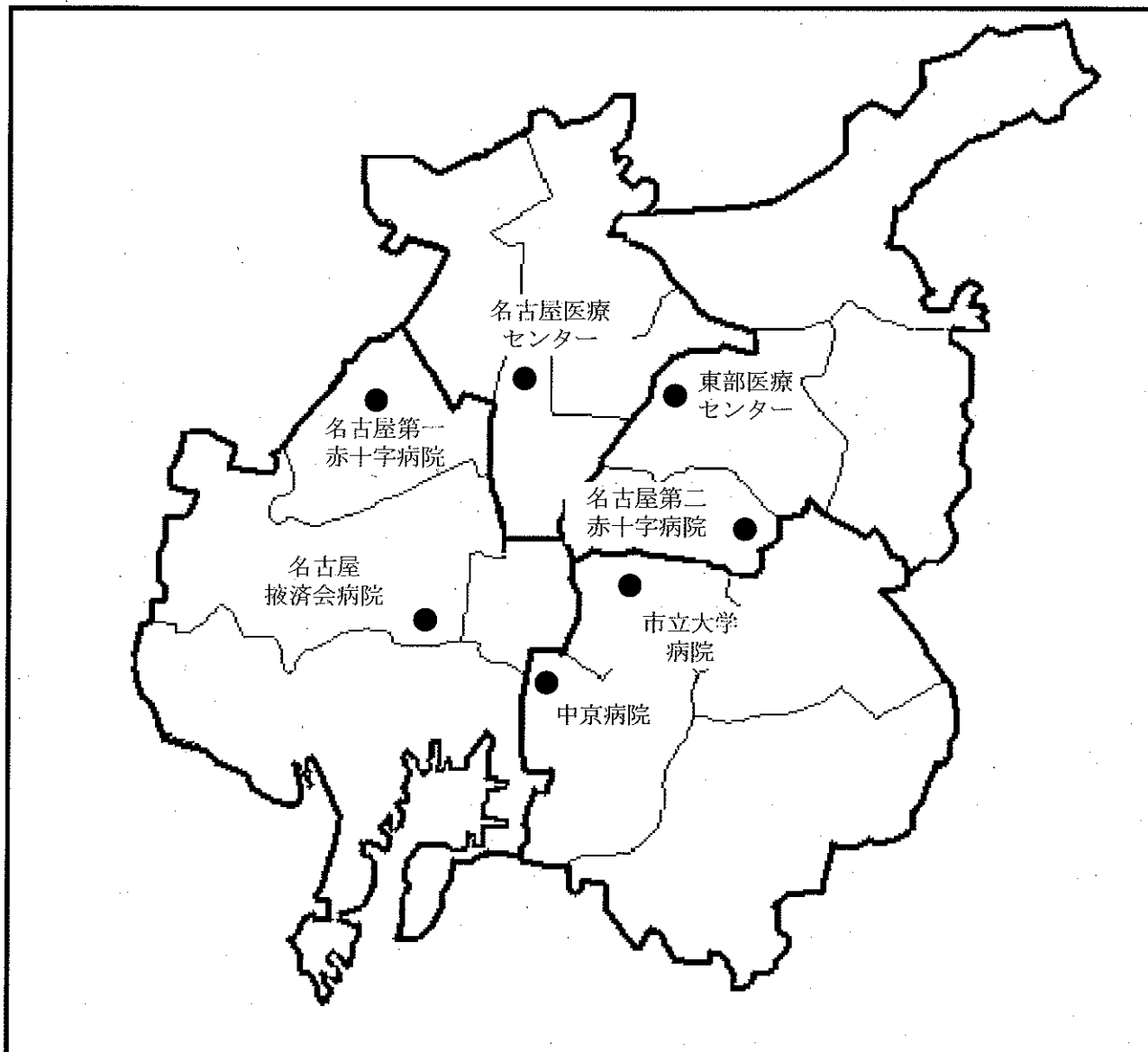
(単位：人)

区 分	人 数
医 師	9
看 護 職 員	1
診 療 放 射 線 技 師	1

注1：平成30年3月1日現在

注2：看護職員は、育児休業の代替職員等を含む病院運営に必要な数に不足する数

5 市内の第三次救急医療施設の配置状況



6 口腔ケアの状況

(1) 周術期口腔機能管理に係る職員体制

(単位：人)

区 分	歯 科 医 師	歯 科 衛 生 士 (嘱 託 員)
東部医療センター	2	1
西部医療センター	5	2

注1：平成30年3月1日現在

注2：西部医療センターの歯科医師には、シニアレジデント1人を含む

(2) 実績

ア 周術期口腔機能管理料の算定件数

(単位：件)

区 分	28年度	29年度
東部医療センター	276	568
西部医療センター	324	251

注：平成28年度は実績、平成29年度は平成29年4月から12月までの実績

イ 周術期口腔機能管理以外の活動内容

栄養サポートチームによる回診の中で、誤嚥予防、唾液の誘発、口腔内刺激、清潔性の維持を目的に、口腔内の状態を確認し、歯科医師が必要に応じて対応している。

注：栄養サポートチームとは、原疾患の治癒促進、感染症等の合併症予防等を目的とした、栄養管理に係る専門的知識を有した多職種からなるチームをいう

(3) 課題

外来診察室への移動が困難な患者への対応

7 市内の主な病院の歯科衛生士の常勤職員数

(単位：人)

区 分	人 数
東 部 医 療 セ ン タ ー	—
西 部 医 療 セ ン タ ー	1
名 古 屋 第 一 赤 十 字 病 院	7
名 古 屋 医 療 セ ン タ ー	1
名 古 屋 大 学 医 学 部 附 属 病 院	7
名 古 屋 第 二 赤 十 字 病 院	5
市 立 大 学 病 院	1
名 古 屋 掖 濟 会 病 院	5
中 部 労 災 病 院	—
中 京 病 院	3

注1：平成30年度の常勤職員の配置予定数

注2：人数には、任期付職員を含む

8 急性期一般入院料1（7対1入院基本料）の基準の見直し

(1) 一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度」の項目及び基準の見直し

ア 項目の見直し

A項目 モニタリング及び処置等（各項目0点～2点）

現 行	見直し後
1 創傷処置 (①創傷の処置(褥瘡の処置を除く)、 ②褥瘡の処置)	(変更なし)
2 呼吸ケア(喀痰吸引のみの場合を除く)	
3 点滴ライン同時3本以上の管理	
4 心電図モニターの管理	
5 シリンジポンプの管理	
6 輸血や血液製剤の管理	
7 専門的な治療・処置 (①抗悪性腫瘍剤の使用(注射剤のみ)、 ②抗悪性腫瘍剤の内服の管理、 ③麻薬の使用(注射剤のみ)、 ④麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、 ⑤放射線治療、 ⑥免疫抑制剤の管理、 ⑦昇圧剤の使用(注射剤のみ)、 ⑧抗不整脈剤の使用(注射剤のみ)、 ⑨抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、 ⑩ドレナージの管理、 ⑪無菌治療室での治療)	
8 救急搬送後の入院(2日間)	

B項目 患者の状況等（各項目0点～2点）

現 行	見直し後
9 寝返り	(変更なし)
10 移乗	
11 口腔清潔	
12 食事摂取	
13 衣服の着脱	
14 診療・療養上の指示が通じる	
15 危険行動	

C項目 手術等の医学的状況（各項目0点～1点）

現 行	見直し後
16 開頭手術（7日間）	(変更なし)
17 開胸手術（7日間）	
18 開腹手術（5日間）	18 開腹手術（4日間）
19 骨の手術（5日間）	(変更なし)
20 胸腔鏡・腹腔鏡手術（3日間）	
21 全身麻酔・脊椎麻酔の手術（2日間）	
22 救命等に係る内科的治療（2日間）	

イ 基準の見直し

現 行	見直し後
以下のいずれかを満たすこと ・ A得点が2点以上かつB得点が3点以上 ・ A得点が3点以上 ・ C得点が1点以上	以下のいずれかを満たすこと ・ A得点が2点以上かつB得点が3点以上 ・ A得点が3点以上 ・ C得点が1点以上 ・ A得点が1点以上、B得点が3点以上で、 <u>かつ「B14 診療・療養上の指示が通じる」</u> 又は「B15 危険行動」のいずれかに該当

(2) 該当患者割合要件の見直し

現 行	見直し後
一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度」の基準を満たす患者を25%以上入院させる病棟であること (平成29年4月から平成30年1月までの実績) 東部医療センター 30.1% 西部医療センター 28.0%	一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」の基準を満たす患者を <u>30%以上</u> 、又は一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度Ⅱ」の基準を満たす患者を <u>25%以上</u> 入院させる病棟であること

注：見直し後の「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」の基準30%は、現行の26.6%に相当

(3) 平均在院日数の要件

現 行	見直し後
18日以内 (平成29年4月から平成30年1月までの実績) 東部医療センター 12.3日 西部医療センター 11.7日	(変更なし)

9 病院事業における消費税及び地方消費税の推移

区 分	29 年度	30 年度	内 容
仮受消費税額 A	円 73,784,853	円 83,933,033	課税収入に対する消費税及び地方消費税の額
仮払消費税額 B	1,206,922,854	1,526,825,297	課税支出に対する消費税及び地方消費税の額
仕入控除税額 C	34,173,993	47,648,155	仮払消費税額のうち、仮受消費税額から差し引くことができる消費税額 (仮払消費税額×課税収入割合)
納付税額 A-C	39,610,800	36,284,800	仮受消費税額から仕入控除税額を除いた実納付税額 (百円未満切捨て)
仕入税額控除ができない消費税額 B-C	1,172,748,861	1,479,177,142	仮払消費税額のうち、仮受消費税額から差し引くことができない消費税額

注：平成 29 年度は見込、平成 30 年度は予算

10 主な災害対策

区 分	内 容
新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○病院独自の業務継続計画の策定 ○天井等落下防止対策（西部医療センター）
継 続	<ul style="list-style-type: none"> ○免震構造を採用した病棟の整備（東部医療センター） ○DMATの配備及びDMAT訓練への参加 ○災害対応訓練の実施 ○災害対応マニュアルの更新 ○災害用備蓄食糧等の購入 ○電子カルテデータの遠隔地バックアップ

11 名古屋市立病院改革プラン2017に定めた主な指標の状況

(1) 東部医療センター

区 分	28年度 実績	29年度 見込	計 画			
			29年度	30年度	31年度	32年度
救急搬送件数	7,645件	7,650件	7,900件	8,200件	8,400件	8,700件
心臓カテーテル 検査件数	698件	705件	695件	700件	720件	720件
脳 卒 中 入院患者数	621人	549人	900人	1,000人	1,200人	1,200人
内 視 鏡 下 手術件数	835件	864件	900件	920件	940件	960件
入院患者数 (1日平均)	386.2人	364.5人	430人	430人	430人	440人
外来患者数 (1日平均)	897.3人	825.3人	940人	940人	940人	1,000人
入院診療単価	61,363円	69,013円	66,916円	67,809円	68,650円	69,838円
外来診療単価	10,113円	11,091円	10,336円	10,336円	10,336円	10,427円

(2) 西部医療センター

区 分	28年度 実績	29年度 見込	計 画			
			29年度	30年度	31年度	32年度
救急搬送件数	2,298件	2,569件	2,300件	2,600件	2,800件	3,000件
分娩件数	1,353件	1,270件	1,300件	1,300件	1,300件	1,300件
がん手術件数	492件	468件	550件	550件	550件	550件
陽子線 治療患者数	422人	450人	600人	700人	800人	800人
入院患者数 (1日平均)	426.8人	419.9人	450人	450人	450人	450人
外来患者数 (1日平均)	1,206.8人	1,182.0人	1,180人	1,180人	1,180人	1,180人
入院診療単価	56,911円	57,252円	56,922円	57,086円	57,188円	57,771円
外来診療単価	18,520円	18,680円	19,293円	20,192円	21,123円	21,284円
外来診療単価 (陽子線を除く)	14,478円	14,831円	14,000円	14,046円	14,092円	14,266円

12 西部医療センターにおけるハイリスク分娩の状況

(1) 診療報酬の項目別推移

(単位：件)

区 分	28 年 度	29 年 度
多胎妊娠の患者	54	36
40歳以上の初産婦である患者	28	28
妊娠高血圧症候群重症の患者	22	15
妊娠22週から32週未満の早産の患者	17	15
子宮内胎児発育遅延の患者	17	14
前置胎盤（妊娠28週以降で出血等の症状を伴うものに限る）の患者	10	9
常位胎盤早期剥離の患者	6	5
分娩前のBMIが35以上の初産婦である患者	5	4
糖尿病（治療中のものに限る）の患者	6	2
当該妊娠中に帝王切開術以外の開腹手術を行った患者又は行う予定のある患者	1	2
出血傾向のある状態（治療中のものに限る）の患者	8	-
精神疾患の患者（精神療法が実施されているものに限る）	4	-
ハイリスク分娩 計	161	124

注1：平成28年度は実績、平成29年度は平成29年4月から12月までの実績

注2：複数の項目に該当する患者がいるため、各項目の計とハイリスク分娩計の値は一致しない

(2) 目標件数及び設定方法

目 標 件 数	設 定 方 法
200件	<p>名古屋市立病院改革プラン2017の目標値については、プラン作成時の直近の実績及び今後の高齢出産の増加を見込み200件に設定した。</p> <p>平成30年度予算については、直近の実績を考慮し、プラン目標値と同値に設定した。</p>

13 西部医療センター3階東病棟の利用状況

(単位：%)

区 分	利 用 率
一 般 個 室 A	102.5
一 般 個 室 B	105.1
特 別 個 室 B	94.1
重 症 室	4.9
普 通 室	86.8
計	89.3

注：平成29年4月から平成30年1月までの実績

14 初期臨床研修医の出身大学別人数

(単位：人)

区 分	人 数
名古屋市立大学	13
藤田保健衛生大学	4
愛知医科大学	2
北里大学	2
長崎大学	2
金沢医科大学	1
久留米大学	1
高知大学	1
滋賀医科大学	1
徳島大学	1
名古屋大学	1
浜松医科大学	1
兵庫医科大学	1
福岡大学	1
計	32

注：平成30年3月1日現在の初期臨床研修医（医師免許取得後1・2年目）の数